
忙しい人のための双界伝

白米

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

忙しい人のための双界伝

【Nコード】

N1728W

【作者名】

白米

【あらすじ】

幻想郷と夢境界、二つの世界を跨いだ弾幕使い達の日常を書いたショートストーリー集。

ネタが思い付いたら投稿す

る方針の為、東方双界伝より更新頻度が更にランダムです。

File 1 双界伝後の賽銭事情（前書き）

霊夢&マリア「忙しい人のための双界伝！」

File 1 双界伝後の賽銭事情

幻想郷、博麗神社

「……………」

今日も霊夢は賽銭箱の中身をチェック。

しかし、中身は空っぽだった。あるとしても妖精が悪戯で入れた石ころやカエルの死骸等だった……。

「……………」

いつもの事ながら全く参拝に来てくれない里の人間や、たまにやつて来るのに賽銭を入れてくれない知人に霊夢は日に日に怒りを感じていた。

「ふふ……何よ、何でも賽銭入れてくれないのよ……………」

誰のお陰で今まで幻想郷があり続けたと思うのよ。幻想郷の奴らはそれが分かっているの？

ふふ……そうね、分かっているなら分かせてやるわよ。幻想郷の真の支配者は誰かという事を……………」

怒りのあまり、顔が般若化してきた霊夢。このままでは恐怖の鬼巫女が幻想郷を血で真っ赤に染めてしまう……。

しかし、その時。

「こんにちはー」

「あゝん」

「ひい!？」

「…何よ、夢幻界の妖精じゃない」

直後に訪問してきた夢幻界に住むエルフ、マリアを睨みつけながら
霊夢は用件を訊く。

「何しに来たのよ、こんな所に」

「参拝に来たのですが……」

「はい？」

「いや、だから参拝に来たんですよ。神社ですよ、ここ？」

まさかの返答に思わず呆気に取られる霊夢。マリアは賽銭箱を見付けると霊夢が見守る中、まずは一礼。続いて賽銭を入れて鈴を鳴らし、二礼二拍一拝。マリアが何円賽銭に入れたかは御想像にお任せします。

呆然とする霊夢に「それでは」と一言挨拶し、マリアは帰っていった。

「……」

信じられないような顔をしてマリアを見送った霊夢。我に返り、賽銭箱を確認して夢では無いことを確認する。

その後。

「兄さん、折角神社に来たから参拝しようよ」

「半分妖怪な俺達が神頼みしていいものなのか？
……ち、細かいのが無いな。これでいいか」

「ちょ！？せめて両替を……あゝあ」

雑にお札を入れる兄と呆れる弟の戦闘バカ兄弟。

「刃に告れますように刃に告れますように刃に告れますように刃に告れますように……」

一心不乱に願い事をいうぬりかべの少年。

「……」

無言で参拝する忍者。

「グリム整備員とにとり殿が自重出来ますように……」

果てにはロボットまで参拝に来ていた。

数日後、博麗神社で宴会が行われていた。

「ほらほら武、遠慮しないで飲みなさいよ。

刃、そんな所にいないで貴女も参加しなさいな。

真壁、ちゃんと食べておかないといつまでもヘタレのままよ。

アルバートも何か食べる？え？ロボットだから食べ物は無必要無い？あー、ゴメンすっかりしてた」

「なあマリア？最近霊夢が、お前達夢幻界の奴らにえらく親切何だが、何かしたのか？」

「いえ……特に何も、ただ時々参拝に来るだけですが……」

「……もしかして、賽銭を入れたのか」

「？入れましたけど、それが何か？」

「……私も賽銭を入れよっかな……」

夢幻界の者だけを贖肩している霊夢に何故か苛立ちを感じた魔理沙は、博麗神社に来た際には時々賽銭を入れる様になったとか……。

夢幻界の異変が解決した後、博麗神社は本の少しだが信仰を得ていた。

File 1 双界伝後の賽銭事情（後書き）

白米「疑問に思っ たんですが」

武「何だ？」

白米「ユーザー様の中で画像を貼っている人がいますけどあれはどうやるのでしょうか？携帯からでもできますかね？」

武「知るか！！」

白米「という訳で画像の貼付ける方法をご存知の方、どうか教えてくださいませんか？」

File 2 風鳴刃の下手物クッキング（前書き）

白米「食事前、もしくは食事中に今回の話を読まない事をオススメします」

霊夢&真壁「忙しい人のための双界伝」

File 2 風鳴刃の下手物クッキング

幻想郷 博麗神社

「こんにちはー」

そこへ夢幻界に住むぬりかべ門番、真壁剛がやってきた。

「霊夢さん。白亜の大門の結界について、ちょっと相談を……って、うわっ!？」

掃除をしていた霊夢に声をかけた真壁だが、彼女の寝れた顔を見て驚く。

「どうしたの、その顔」

「あ、真壁。実は昨日ね……」

） 少女回想中 ）

前日、霊夢の下に萃香、魔理沙、アリスが遊びに来た。

ちょうど昼頃の為、昼食をとろうとした。しかし霊夢1人分の食事はともかく、4人分の食事など用意できない。

どうするか考えていた所、風鳴刃が参拝にやって来た。

刃は霊夢達が昼食に困っている事を知ると、重箱を取り出して霊夢

達に渡した。…何処から取り出したとか訊かないでほしい……。

「今朝の食事の残りだが、良ければどうぞ」

重箱の中身はステーキだった。

早速食べてみたが、牛や豚とは違う食感に疑問を持った霊夢達。そこで、刃に訊いてみたところ……

「ああ、それは

蟒蛇うわばみの焼肉だ」

直後、霊夢達は昏倒して永遠亭に運ばれた。以来、しばらくは肉が食べられなくなってしまったとか。

ちなみに、当の刃は全く反省の色がなかった。

） 回想終了 ）

「うわー。でも、蛇程度で済んで良かったね」

「蛇程度って、あいつ普段何を食べてんのよ!？」

霊夢の証言に引きながらも安堵する真壁の発言に、霊夢は戦慄する。

「えっと、確か……」

前日はタランチュラを丸焼きにして食べてたな。」

「タラっ…!？」

「二日前はナメクジの刺身を食わされたな」

「ええっ!？」

「で、三日前は死ぬかと思ったよ。」

まさかゴキブリの天ぷらが出るなんて……」

「……」

「後はそつだね」

「真壁、もういいわ……」

真壁の話を聞き、顔を青くして吐き気に苦しむ霊夢。

「あ、霊夢さん。大丈夫？」

「ごめん、食欲が無くなった……。今日は休業にするわ……」

「いや、神社に休業あるの？」

ちよ、霊夢さん！？ここで吐こつとしないで！？
誰かー！！永琳さんと呼んでええええええ！！！！」

その後、霊夢は刃の料理に過激に警戒するようになったとか……。

File 2 風鳴刃の下手物クッキング（後書き）

白米「今回の話のネタを、食事中に思い付く私の精神は一体……」

霊夢「少なくとも普通じゃないわね」

白米「orz」

File3 白米画伯のロボット画（前書き）

今回、都合により台本書きです。

台本書きが苦手な方は閲覧注意です。

アルバート&魔理沙「忙しい人のための双界伝」

File 3 白米画伯のロボット画

博麗神社 霧雨魔理沙とアルバート・エースの会話

魔理沙「なあ、アルバート…」

アルバート「何だ？」

魔理沙「前からお前を見てて思ったんだが……」

> i 3 0 3 8 2 — 3 9 0 3 <

魔理沙「お前、何処の機動戦士？」

アルバート「……言うな」

白米「気合い入れて描いたこの絵を友人が見たとき、『なんか、ガン。ムに出てきそうなロボットだな』と言われました。」

霊夢「仕方ないわよ、ガン。ム知らない私が見てもガン。ムっぽい

わよ、これ」

白米「ですよー」

霊夢「ところで、あんたの黒歴史倉庫からこんな絵を見つけたんだけど……」

白米「ちょー！何発掘してくれてんですか！ー」

> i 3 0 3 8 7 — 3 9 0 3 <

> i 3 0 3 8 8 — 3 9 0 3 <

> i 3 0 3 8 9 — 3 9 0 3 <

白米「ぎゃあああああああああああ！！！！／／／」

霊夢「真ん中以外、かなり凝ってるわねえ……」

白米「もう…死んでいいですか……？」

霊夢「東方双界伝が完結するまで死ぬな！」

File 3 白米画伯のロボット画（後書き）

武「次、俺の絵も描いてくれよな」

勇「あ、俺も」

白米「ゴメン。人物画・生物画は苦手で描けない……」

六道兄弟「ふざけんなー!!」（アッパー）

白米「ぶべらぁ!!?」

File 4 ハロウィン（前書き）

10月31日に先駆け、今回の話を投稿しました。

今回は東方キャラ×オリキャラ要素があります。ですので、

・全国の『多々良小傘は俺の嫁』という方

・東方キャラ×オリキャラなんて見たくないという方

・恋愛経験無い奴が書いたラブストーリーなんか屑だという方

今すぐブラウザバックする事を推奨します、マジで。

それでもいいぜベイバー！な方は、ゆっくりトリックオワトリート
して行ってね！

小傘「忙しい人のための双界伝！」

File 4 ハロウィン

御存じの方もいるだろうが、10月31日はハロウィンである。冬の間だけ活動する冬の妖怪レティ・ホワイトロックや、春になるとそれを伝える為に幻想郷中を飛び回る春告精リリーホワイがいるように、10月下旬のみ活動する妖怪がいた……。

幻想郷 某所。

「ケケケ。トリックオワトリート！」

「きゃあああっ!?!」

黒いローブを羽織った少年が、道行く二人組の女性にお化けの幻影を見せて脅かしている。

女性が逃げた後には紫色のキャンディが落ちており、少年はそれを拾って舐める。

「ケケツ。お前達の恐怖、頂いたぜ」

オレンジ色の髪にまだ幼さを残す童顔。頭にはカボチャのお面を付けている。

右手に先程の紫色のキャンディ、左手にカブで作ったランタンを手にし、少年、ジャック・ウィスは夜中を走り回った。

「ケケケ、大量大量。これだからハロウィンはやめられないんだ」

1時間後、大量のキャンディを袋に詰めてジャックは満足そうに笑う。

「後はこれを夢幻界と幻想郷の妖怪達に売り捌くだけだな。ケケケ」

彼の能力は『人間の恐怖心を集める程度の能力』。自分が出した幻影に驚いた人間の恐怖心をキャンディに変え、ジャックはそれを妖怪達に売り捌き金を稼いでいるのである。

人間を襲う事が妖怪の存在意義なのだが、幻想郷や夢幻界の人間を襲う事は禁止されている。その為、ジャックの恐怖心キャンディは妖怪の力になるのだ。

ちなみに、ジャックがキャンディを作る日はハロウインの時だけである。この日だけ人間を驚かす事が許されている。

「ケケケ。さて、もう少し稼がせて貰おうかね」

小悪魔的な笑みを浮かべるジャック。その後ろから忍び寄る影が一つ。

「そこの君！」

「ん？」

「うつらめしや〜」

ジャックが振り返ると紫色の傘のお化けがいた。

「……」

それを見て驚く所か冷たい目でキャンディを舐めるジャック。

「ちょ！？何で驚かないの！？私は傘化けなんだぞ、怖いんだぞ！」

「生憎、こっちはジャック・オ・ランタンなんだがな…」

ジャックの反応に涙目になる小傘だが、同じ妖怪であるジャックは知らんぷりしてキャンディをしゃぶる。

「え、君は妖怪なの？」

「ケケツ。何だお前、人間かどうかも確認しないで脅かしていたのか？」

「むー、何だこのカボチャ頭！カボチャの仮面なんてダサイものを被ってるなんて、悪趣味！」

「……………」

「ひゃう！？な、何を……………」

小傘が『カボチャ頭』と言った瞬間、ジャックは途端に無表情になり、小傘を押し倒す。

「ケケツ。口が過ぎたようだな傘化けのお嬢さん」

「え？それはどういう……………むぐっ！？／／／」

ジャックは自分が嘗めていたキャンディを小傘の口に入れた。突然の事に小傘は顔を真っ赤に染める。
ある意味、間接キス。

「ケケツ。そいつはプレゼントだ。
せいぜい頑張りな、傘化け。ケケケケケ！」

「あ……ま、待てーこのカボチャ頭ー！！／／／」

笑いながら去っていくジャックに、顔を真っ赤にして追い掛ける小傘。

ハロウインの夜、ジャック・オ・ランタンと傘化けの追いかけっこが繰り広げられた。

幻想郷 命蓮寺

あの後、ジャックを見失った小傘は顔を真っ赤にして呟いた。

「こ、今度会ったら責任とって貰うんだから……／／／」

「こ？こ」

小傘の言葉に首を傾げる封獣ぬえと幽谷響子であった。

ケケケ、トリックオワトリート！
悪戯かお菓子、お前はどっちが好みかな？

File 4 ハロウィン（後書き）

白米「今の私にはこれが精一杯……」

霊夢「他の人の反応によるわね…。

ところで、あのカボチャのお化けはジャック・オ・ランタンっていうのね」

白米「そうです。本名知らない人から『ハロウィンお化け』やら『カボチャお化け』とか『パンプキン』など呼ばれます。正式にはジャック・オ・ランタン、即ちランタン男ということです。

後、元々はカボチャじゃなくてカブ頭だったらしいですよ？」

霊夢「あ、だからジャックが持ってたのは『カブ』のランタンだったのね」

白米「ええ、その名残として。さて、本編のフングス編を早く更新しなくては……」

霊夢「…できれば更新しないで……」（次回の双界伝の話でトラウマ化）

白米「いや、そういう訳にもいかないので」

霊夢「……」（泣）

File 5 本当にあった実験【学問編】（前書き）

双界伝の最新話や正月回の作成をする中、何故か思い付いてしまったネタ。

これから私が体験した事柄を霊夢達に代役してもらいます。
台本書きの為、苦手な方は注意です。

それでは、どうぞ

白米「ウボアアッ!？」↑アイスバーンに滑ってコケた

武「（歩きながら携帯弄るなよ……）」↑物影から様子を見ている

真壁&霊夢&魔理沙「」「忙しい人のための双界伝!！」」「」

File 5 本当にあつた実体験【学問編】

白米代理：真壁

友人A代理：魔理沙

友人B代理：霊夢

女子クラスメイト代理：早苗

教師代理：慧音

ちなみに言っておきますが、友人二人は男です（汗）

「「おいイ!?!」」

・歴史

魔理沙「戦国武将といえば、織田信長だよな」

真壁「そうそう。それに今度のテストで信長の事も出るだろうし、覚えておかないとね」

魔理沙「うげー」

霊夢「ところで、信長って何した人だっけ？」

魔理沙「あー？ 信長といえばアレだろ。」

刀狩りじゃあああああ！！！！」（カブト狩り風に）

真壁「それ秀吉だろ！」

霊夢「……」（笑）

自信持って叫んだ為、近くにいた人達が大笑い。

・英語

慧音「じゃあ、蚊は英語で何と言うか？ 誰か答えてくれ」

早苗「はい」（挙手）

慧音「よし、早苗」

早苗「えーと、

霊夢「ちょ、誰か救急車……！」

あれ以来、ミシンに触るのが怖くなりました（泣）

以上、白米の学生生活の一部でした。

真壁「つて、何も最後の奴まで再現しなくてもお……！」（泣）
↑指
血まみれ

霊夢＆魔理沙「マジでやったんかい……！」

フエイ「真壁君、大丈夫……？」↑血相変えて

真壁「ああ、フエイ。まあ、ほっとけば自然に治るけど……！」

フエイ「……はむ」↑真壁の指を……以下規制

真壁「つて、えええええ……！！……？」

霊夢＆魔理沙「……！！……？」

フエイ「？　どうしたの？」

魔理沙「おま、フエイ……」

霊夢「大胆な……」

フエイ「…………あ／／／

き、キヤアアアア！！？／／／」↑逃走

何やってんの…………（汗）

File 5 本当にあった実験【学問編】（後書き）

フェイ「（嫌われた……真壁に絶対嫌われた……）」（大泣）

真壁「……あ、フェイ」

フェイ「ま、真壁君!？」（涙目）

真壁「いや……その……」

あ、ありがとう。おかげで何か痛みが引いた気がする」（汗）

フェイ「え、あ、うん／／／」

真壁「じ、じゃあこれで……」↑立ち去る

フェイ「うん！

（よ、よかった！。真壁に嫌われてない／／／）」

真壁「……」

（な、何で刃以外の女の子に、こんなにドキドキするんだろう）
／／／」

白米「（早くくっつかないかな……）」↑物影からナズエミテルン
デイス状態。

霊夢「（もどかしいわね……）」↑同じく

魔理沙「（頑張れフェイ!）」↑同じく

パルスイ「（パルパルパルパルパル……）」↑同じく……って
おいイ!?

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1728w/>

忙しい人のための双界伝

2011年12月15日22時51分発行